

# 一般質問

12月3日の本会議において、区長・教育長に対し、各会派の代表7名による一般質問が行われました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。



いずみ ひろし  
**和泉 浩司** (台東区議会自由民主党)

## 活力溢れる台東区のための行政改革について

**問** 指定管理者制度について、「立ち止まり」「振り返り」「見つめ直す」時期であると考えているが、現状に対する認識及び今後の進め方について、区長の基本的な考え方を伺う。**答** 民間ノウハウの活用により、一定の効果が得られていると考えます。今後とも指定管理者の選定、その後の管理状況等の検証を公正かつ厳格に行い、制度のメリットが最大限に発揮されるよう努めます。

**問** 監査機能強化のために、「常勤監査委員」の設置や監査事務の外部委託を検討してはどうか。**答** 監査事務局のあり方を含めた監査制度の充実について検討します。

**問** 広報活動は一貫して広報課が戦略・戦術を担うシステムに改め、専門知識・スキルを持った職員の採用が必須と考えるがどうか。広報「たいとう」についても、外部委託を検討してはどうか。台東ケーブルテレビについても、戦略的な攻めの広報活動を展開していくときであると考えているがどうか。**答** 任期付職員制度の活用も含め、その方策を探っていきます。広報「たいとう」については、編集の一部を外部に委託する方向で検討します。台東ケーブルテレビについては、そのあり方を含め検討しています。

**問** 期間を限定し、外部の人材のスキルやネットワークを生かし、特化した課題解決に取り組む、副区長複数制について、区長の所見を伺う。**答** 特定の行政課題に対応した副区長の任用については、活力ある区政を進める上で有効な方策であると認識し、組織経営といった面からも効果的な体制づくりに努めます。



こうの じゅんの すけ  
**河野 純之佐** (台東区議会区民クラブ)

## 道路の通称名の推進について

**問** 道路に通称名をつけることは、区民の郷土愛が育まれるよい機会と考える。誰もが簡単に名所や目的地に到達できるように、わかりやすい街を目指すことは、国際観光都市としての責務でもある。交通の利便性も高まり、環境整備を行うことで回遊性ができ、本区の地域の活性化が進むと考える。積極的に道路通称名を選定すべきと考えるがどうか。道路通称名の普及拡大は、観光の視点で多くのメリットが考えられるがどうか。道路通称名標示板の設置場所についての基準はあるのか。また、国道や都道にある道路標示板とデザインに統一感をもたせるなどの検討を行っているのか。**答** 道路通称名は、一定規模以上の道路を対象に周辺住民に日常的に使われている名称であること等の基準を設けて選定し、対象道路の起点、終点等への設置を基本に、歩道上の通行の支障とならないこと等を考慮し設置してきました。しかし、地域で古くから呼ばれている通称名の中には、商店街の名を冠するなど、区の基準に該当しない道路も多くあります。現在、区では、観光マップや観光案内板には、通称名も含め、通りの名称を標記しています。これらの通りについては、国道、都道のデザインを勘案しながら、台東区にふ



こすげ ちほこ  
**小菅 千保子** (台東区議会公明党)

## こどもクラブが学校配置に移行した場合、今後の児童館の転用について

**問** こどもクラブが移行した後の児童館の空き室を、中高生のための居場所や、幅広い世代の余暇活動等を支援する場として、コミュニケーション施設などに転用していくべきではないか。**答** これまでも中高生タイムを実施し、活動の場を提供してきました。議員ご提案のような利用方法などを視野に入れ、児童館の一層の充実を図ります。

## 発達障害児の療育支援体制と特別支援教育の取り組みについて

**問** 発達障害を早期に発見し、療育を開始するために、4歳6ヶ月児の一斉健診を実施してはどうか。**答** 就学までの乳幼児を対象として実施している専門医・専門家による発達相談の一層の周知を図ります。4歳6ヶ月児健診については、引き続き調査・研究していきます。

**問** 発達障害の早期発見と充実した支援を行っていくために、松が谷福祉会館から独立した発達障害児支援のための療育施設を整備してはどうか。**答** 東京都には、法令で義務づけられた専門施設として「発達障害者支援センター」が設置されており、個別の状況に応じて連携を図

## 真の「子育てするなら台東区」を目指して

**問** 保護者の就労形態の変化などを考慮に入れ、時代のニーズに即応した認可保育園を新設することにより、区民の要望に添えていくことが必要と考えるが、どうか。**答** 新たな保育サービスを提供するためにも、認可保育園の整備は必要と考えます。運営方法や保育形態などについては、様々な角度から検討します。

**問** 今年10月から実施している「小児インフルエンザ予防接種助成」の対象を1歳児から中学卒業までに拡大することで、家庭内感染が予防でき、医療費抑制に寄与するものと考えているがどうか。また、今年度から助成対象を拡充すべきと考えるが、区長の決断を求める。**答** 対象年齢の拡大については、実施に向け検討します。今年度からの実施については、すでに自費で接種をしている方がおり、公平性の観点から困難と考えます。

**問** 「24時間小児救急」の前段階として永寿総合病院に対する支援を再開し、「台東区準夜間・休日こどもクリニック」の充実を図るべきと考えるがどうか。また、永寿総合病院を「不妊治療」の指定病院としていくことを求めているが、どうか。**答** 小児医療拡充の方策の一つとして、小児科の一層の充実に向け、運営支援を含め協議を進めます。指定病院となるには、一定の要件を満たすことが求められており、病院の意向を踏まえ、可能性について研究します。

**問** 家庭教育の充実について、ア教育問題の中で「モンスターペアレンツ」など、その種の問題が報告されたことがあるのか。イ核家族化の進行により不安感を持ちながら子育てを頑張る保護者に対し、「家庭教育アドバイス」制度を、モデルケースとして私立幼稚園において実施してはどうか。**答** アマスコミが取り上げているような極端な要求はありません。イ従来より全ての公立校・園において「家庭教育学級」を実施していますが、私立幼稚園に対しても学習機会のさらなる充実を図ります。

## 救急医療体制の充実について

**問** 本区には入院や手術が出来る2次救急医療病院は2つあるが、区民が一刻を争う重篤時に対応出来る3次救急医療病院がない。そこで、隣接区の大規模な病院と提携や協定を結び、救急医療体制の充実を図ることが重要と考える。今後の救急医療システム構築への取り組みについて伺う。**答** 現在、東京都を中心として、特定の医療機関がネットワークを組み、輪番制で救急患者を受け入れていく制度の構築を検討しています。今年度中には、脳卒中救急医療システムの早期実現に向け、具体的な課題解決の方向性を決定すると聞いています。区内の病院や診療所には、急性期後の回復期、維持期での医療連携が求められることとなりますので、スムーズな連携体制を強化します。

**問** 区民が安心して生活するために、新台東病院において救急医療を担っていくべきと考える。現時点での、新台東病院における救急医療のあり方を伺う。**答** 新台東病院では、入院を必要としない急病者に対応する初期救急医療を実施します。入院や緊急手術など、対応が困難な場合は、適切な医療機関と連携を図ることで、万全の体制をとっていきます。また、準夜間・休日の小児初期救急医療を実施し、安心して子育てができるよう、医療の面から支援していきます。

っています。当面は、現体制の中で療育支援の一層の充実を図ります。

**問** 発達障害児のライフステージに合わせた適切な支援体制の整備と、一貫性のある支援を行う組織として、(仮称)「発達障害支援室」を設置してはどうか。また、窓口職員に対して、発達障害への認識を深めるための研修を行ってはどうか。**答** 保健、福祉、教育などの各所管で構成する「総合発達支援体制庁内検討会」を組織し連携を図るとともに、担当職員の専門性を高める研修を実施しています。さらに、すべての職員が発達障害児支援研修などを通じ、知識の習得と意識啓発を進め、対応力の向上を図ります。

**問** 発達障害に関して適切な情報を共有していくために、学校長や特別支援教育コーディネーターをはじめとした小中学校の全教職員に対する研修が必要と考えるがどうか。**答** 特別支援教育コーディネーター等を対象とした特別支援教育研修会を実施しています。副校長研修会については、学校・園における全教職員に指導する研修として位置付け、経験の浅い教員には、特別支援教育研修会の受講を義務付けています。

**問** 教職員等がより専門性を高めるためにも専門医等による巡回相談の拡充が必要と考えるがどうか。**答** 平成18年度から保育園・幼稚園などへ臨床心理士等の専門家を派遣し、巡回訪問相談を行っています。今後とも巡回相談の充実を努めます。

**問** 発達障害児に必要なクールダウンには同級生や保護者の理解・協力も求められるが、発達障害に関する啓発等をどのように行っているのか。**答** 学校・園が行っている障害の実態に応じた配慮や支援、具体的な方法や指導内容等について、他の子どもや保護者にも説明し理解を求めています。